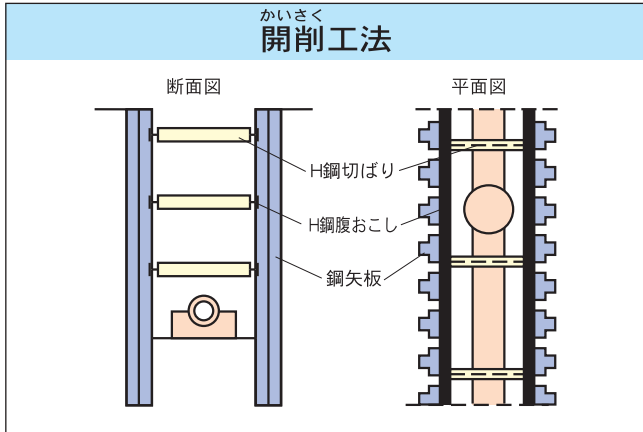


# S 下水道管渠

下水道の管渠は家庭や事業所から流入する下水を処理場まで流下させる重要な役割を担っています。

## ■ 幹線管渠を施工する工法

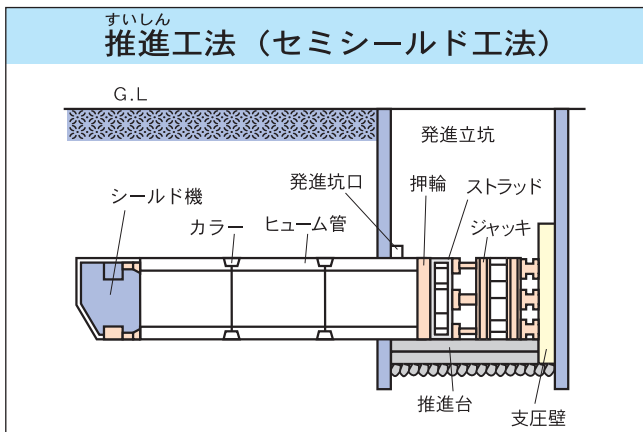
管渠は、下水道管、マンホール、中継ポンプ場で構成されており、下水道管の材質はコンクリート管、塩化ビニール管、強化プラスチック管及びそれらの複合管が使われています。工法は主に以下の3工法です。



埋設深さが浅い小口径管の標準的な工法です。掘削する際の土留め工には木矢板、軽量鋼矢板、建込み工法などが用いられます。



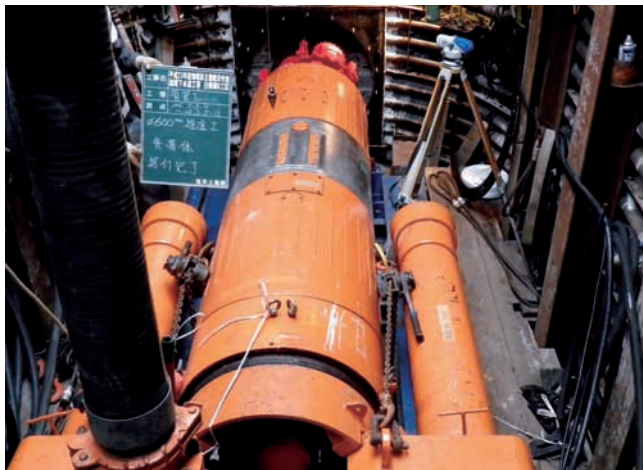
開削工法



発進立坑からヒューム管をジャッキの力で押し込んでいき、到達立坑まで推進が完了すると管路が完成します。



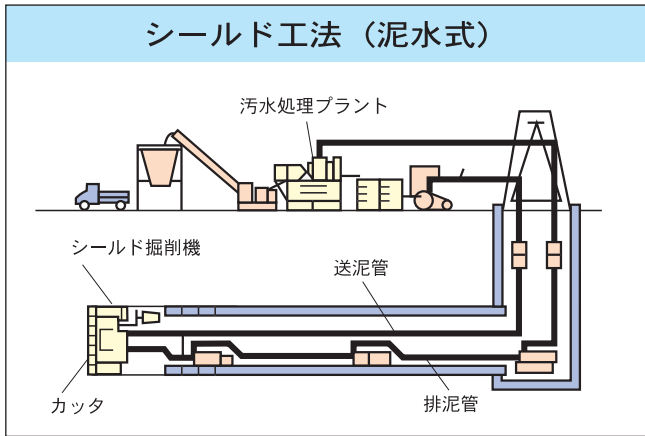
推進工法の発進立坑



推進機先導体を油圧ジャッキにより圧入



掘削後の状態



シールドマシンでトンネルを掘削します。セグメントで一時的覆工し、あとで水を通すため内側に二次覆工としてコンクリートを打設します。

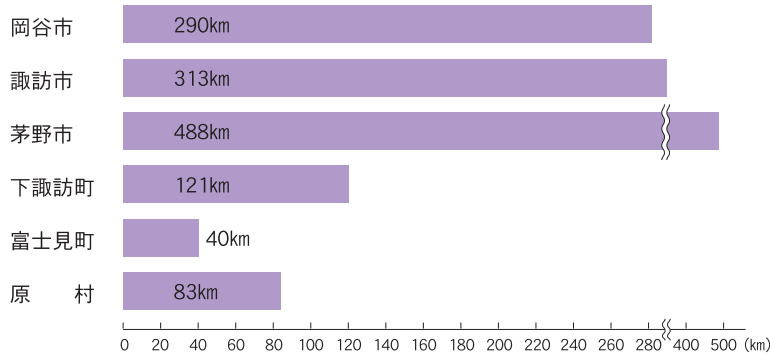


シールド工法(1次覆工)

## ■ 幹線管渠の維持管理

流域下水道幹線管渠は、毎日家庭や事業所からの下水を流域関連公共下水道から受け入れています。定期的に損傷・流下状況の調査を行い、浚渫・補修を行っています。

市町村別下水道管の長さ（汚水管、H27.3.31）  
（流域関連公共下水道）



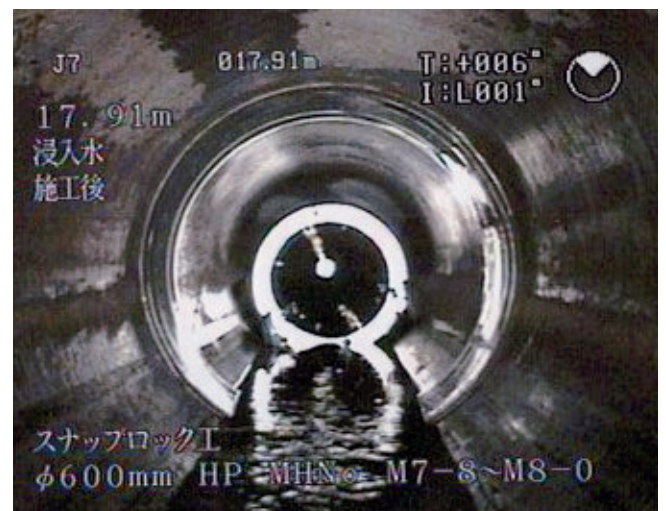
※平成28年4月より、白樺湖特定環境保全公共下水道（茅野市及び立科町の一部）は諏訪湖流域下水道へ編入



管路のロボットカメラによる調査



地下水浸入個所の補修状況(施工前)



(施工後)